

参加者募集 / 参加無料

中山間地域の未来を 考えるシンポジウム

～地域への愛着と誇りを、将来への希望と安心につなげる～

急激な人口減少と高齢化が進む中山間地域において、将来に向けて安心して暮らすためには、どのような課題があるのでしょうか。

広島県は「広島県集落対策に関する検討会議」を設置し、持続可能な地域運営の仕組みづくりや、安心して暮らす続けられる生活環境の在り方等について、地域の実態と地域住民の声を参考に、有識者による議論を進めてきました。

中山間地域の価値を再認識し、守っていくことの重要性について、皆さまと考えていきます。



作野 広和氏

島根大学教育学部教授・
広島県集落対策に関する
検討会議座長



浦田 愛氏

NPO法人ほしはら山のがっこう事務局長・
広島県集落対策に関する
検討会議構成員



黒川 章男氏

NPO狩留家理事長



宮野 元壮氏

元神石町長・
ながの村自治振興会会長



今田 順氏

地域価値共創センター
ディレクター



福岡 誠志氏

三次市長



湯崎 英彦

広島県知事

2024年

日時

3月23日(土)

13時～15時40分(開場12時30分)

会場

十日市きんさいセンター

(広島県三次市十日市南1丁目2-18)

【オンライン配信有り】



JR芸備線三次駅より徒歩3分 ※駐車場には限りがあります。

申し込みは裏面へ



プログラム

要約筆記あり

13:00

基調講演「中山間地域の集落が果たす役割と
未来への対応」

講師 / 作野 広和氏

(島根大学教育学部教授・広島県集落対策に関する検討会議座長)

13:40

パネルディスカッション
「地域住民が暮らし続けられる集落へ～
その価値を将来へつなぐ」

登壇者 作野 広和氏

浦田 愛氏 (NPO法人ほしはら山のがっこう事務局長・
広島県集落対策に関する検討会議構成員)

黒川 章男氏 (NPO狩留家理事長)

宮野 元壮氏 (元神石町長・ながの村自治振興会会長)

今田 順氏 (地域価値共創センター ディレクター)

福岡 誠志氏 (三次市長)

湯崎 英彦 (広島県知事)

コーディネーター 城戸 収氏 (中国新聞社編集局報道センター社会担当部長)

主催 / 広島県





基調講演講師／作野 広和氏

(鳥根大学教育学部教授・広島県集落対策に関する検討会議座長)

広島大学大学院文学研究科修了、同大助手。鳥根大学講師、准教授を経て、2014年から教授。この間、広島大学大学院、美作大学、京都大学大学院、鳥取大学農学部などにおいて非常勤講師を務める。インド、スリランカ、中国、韓国における農村調査に参画。総務省過疎問題懇談会委員、総務省地域運営組織研究会委員、国土審議会特別委員、鳥根県邑南町顧問等、役職多数。鳥根県江津市、出雲市佐田町、邑南町、奥出雲町、飯南町、兵庫県佐用町に研究室の分室「ラボ」を設置し、住民との協働による地域づくりを実践中。



黒川 章男氏

(NPO狩留家理事長)

1941年、広島市安佐北区狩留家町生まれ。香川大卒業後、食品メーカーに勤務し、退職後の2010年にUターン。狩留家地区社会福祉協議会会長を務める傍ら、12年6月にNPO狩留家を設立した。「史跡散策会」の開催、芸術線の活性化を目的とした「中郡古道プロジェクト」、水車建造など、「狩留家」の町おこしに取り組む。「白なす」に地域の名前を付けてブランド化した「狩留家なす」事業では品不足になるほどの人気商品となり、2021年には狩留家なす物流センターも建設した。



今田 順氏

(地域価値共創センター ディレクター)

東京生まれ広島育ち。一橋大学社会学部卒業後、東京・西国分寺のカフェ・クルミドコーヒーに勤務し、地域通貨の立ち上げ、地域の人と作る出版、書店業など、地域とお店の接点づくりに従事。2020年に広島へUターンし、カミハチキテルなど広島都心部の官民連携のまちづくり支援業務に携わる傍ら、ブックキュレーターとして広島、福岡PARCOで開催した本屋のポップアップBOOK PARK CLUBなど「まち×本」の新たなうごめきを模索中。



湯崎 英彦

(広島県知事)

1965年10月4日広島市生まれ。広島大学附属中学校・高等学校卒業。東京大学法学部卒業。スタンフォード大学経営学修士(MBA)取得。1990年通産省(現経済産業省)入省。2000年3月株式会社アカ・ネットワークスを設立。代表取締役副社長就任。2008年3月同社退任。2009年11月広島県知事に就任(現在4期目)。



浦田 愛氏

(NPO法人ほしはら山のがっこう事務局長・広島県集落対策に関する検討会議構成員)

1972年生まれ。福岡市育ち。ジュニアリーダーなどの活動を通してまちづくりやキャンプ、フィールドフォークソングと出会い影響を受ける。大学で児童教育を学んだ後、農村を体感してから教育に関わりたくいと三次市上田町にUターン。観光・教育福祉系の仕事を経て、2003年地域ぐるみで廃校活用のふるさと自然体験塾開講、2012年よりNPO法人ほしはら山のがっこう副理事長兼事務局長。三次市川西地区集落支援員。時々イラストや歌を描く。自然と人と猫が好き。



宮野 元壮氏

(元神石町長・ながの村自治振興会会長)

1953年生まれ。大東文化大卒。1991年から旧神石町議会議員(3期連続)、1999年から議長、2001年から2004年まで旧神石町長。現在、神石高原町のながの村自治振興会会長、帝釈峡観光協会会長、社会福祉法人神石高原町社会福祉協議会会長。1991年設立した「永野を考える会」メンバーとして地域資源・地域間交流を生かした地域づくりを推進、現在は振興会内での交流事業にも取り組んでいる。



福岡 誠志氏

(三次市長)

1975年6月16日三次市生まれ。1994年3月、広陵高等学校卒業(2年生の春甲子園出場、キャプテンを経験)。1998年3月、広島国際学院大学卒業。2005年9月、広島修道大学大学院修了。1998年4月、湧永製菓(株)広島事務所に勤務。2001年5月、三次市議会議員に初当選(以降連続5期当選)。2019年4月、三次市長初当選。2023年4月、三次市長再選(現在2期目)。



城戸 収氏

(中国新聞社編集局報道センター社会担当部長)

1972年生まれ。呉市出身。慶応義塾大卒業後、1996年に中国新聞社入り。報道部を中心に岡山支局、松江支局、東京支社に勤務。松江時代に長期連載「山里のあす」を手がけるなど中山間地域の現場を巡って課題や魅力を発信した。広島では主に県政、広島市政を担当。原爆・平和や瀬戸内海の再生、西日本豪雨など幅広い分野で取材やキャップ・デスク業務を担った。東京では官邸キャップとして安倍政権を取材。2022年から現職。

申込方法

応募フォームに必要事項(名前、住所、電話番号、メールアドレス、一般・学生・行政関係の別と、あれば質問)をご記入の上お申し込みください。はがき・FAXでも受け付けます。

●定員／先着順とし、定員を超えた場合はオンラインをご案内

会場 150人 オンライン 制限なし

申込締切 3月19日(火)23時59分

はがき・FAXの場合は下記申込書をご利用ください。

中山間地域の未来を考えるシンポジウム

参加申込書

名前			
住所	〒		
電話番号			
メールアドレス			
参加方法	<input type="checkbox"/> 会場	<input type="checkbox"/> オンライン	
いずれかにチェック	<input type="checkbox"/> 一般	<input type="checkbox"/> 学生	<input type="checkbox"/> 行政関係
シンポジウムのテーマに関するご質問があればご記入ください。			

切り取り線

応募フォームの場合



<https://q.c-rings.net/?enq=XATGwyYoR3o%3d>
(オンライン参加の申し込みもこちらから)

はがきの場合

下記を宛先としてご利用ください。

切り取り線

〒730-8677 広島市中区土橋町7番1号
中国新聞社ソリューション推進チーム内
「中山間地域の未来を考えるシンポジウム」事務局 宛

FAXの場合

「中山間地域の未来を考えるシンポジウム」事務局
FAX 082-236-2515

※個人情報について／お送りいただいた個人情報は、主催者である広島県及び事業の受託事業者である中国新聞社が厳正に管理し、本シンポジウムの連絡・運営、および関連する事業のために使用するほか、個人を特定しない統計情報として利用します。

【お問い合わせ】「中山間地域の未来を考えるシンポジウム」事務局
TEL082-236-2342(平日9:30~17:30)